

2018年度事業計画書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

1 2018年度事業の方針

2017年度の活動を引き継ぎ、本法人として定款で定めた目的を達成するため、広範な市民との協力関係のもと、必要な事業を行っていく。在日アフリカ人との連携・支援事業については、昨年度の実績を踏まえ、他の難民支援団体との連携を強化しながら、難民への支援に関わる取り組みを強化する。アフリカ熱帯林の課題に関しては、AJF が積極的に資金獲得を行うことにより、現地での野生生物保全および日本での啓発事業を進めていく。2019年の TICADVII 開催に向け、「市民ネットワーク for TICAD」の取り組みをバックアップし、アフリカに関わる NGO の連携と政策提言を強化する。保健分野については、アフリカの市民社会自身の保健向上・感染症克服などの取り組みと連携し、グローバルな保健政策や日本の保健分野支援に関わる政策環境の改善を図る。また、2019年に予定されているグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の増資等に向け、アフリカの保健向上に向けた資源動員の拡大を図る。貧困のない持続可能な世界の実現を目指す国連「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成に向け、AJF が事務局を務めてきた「（一社）SDGs 市民社会ネットワーク」について、当該ネットワークの方針に沿って、その活動の拡大と組織的自立を支援する。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	支出予算
アフリカ支援事業	<ul style="list-style-type: none">○ アフリカにルーツを持つ子どもを対象とした「アフリカンキッズクラブ」を運営し、アフリカ文化に触れ、交流するイベントを開催する。また、他団体の企画やフェスティバルなどにも積極的に参加する。アフリカンキッズクラブ東海など、首都圏以外の地域の活動とも連携していく。○ 在日アフリカ人コミュニティと交流・連携し、日本社会におけるアフリカ理解の促進、サポートや情報が必要な在日アフリカ人への支援を行う。○ なんみんフォーラムに参加する他の難民支援団体と連携を取りながら、日本での生活に課題を抱える難民・難民申請者を支援する。	60万円
ネットワーク形成事業	<ul style="list-style-type: none">○ 国際協力 NGO の総合的なネットワークである JANIC や、国際保健 NGO のネットワークである GII/IDI・NGO 連絡会等に参加し、他の参加 NGO とともに、アフリカと日本の市民社会の連携・協力の強化、アフリカの抱える課題の解決に必要な取り組みを促進する。○ SDGs 市民社会ネットワークの事務局を引き続き担いつつ、SDGs 達成に向けた NGO・NPO ネットワークの形成や、広報、啓発、政策提言活動等を行う同ネットワークの活動を支援する。また、同ネットワークの組織的自立を支援する。○ 2017年に作成したアフリカに関わる NGO ダイレクトリーに掲載されている情報をウェブのデータベースに反映させて、情報を更新し、アフリカに関わる個人、NGO 同士の連携、国際協力機関・自治体・企業と NGO の関係強化に資する。○ 「市民ネットワーク for TICAD」の事務局を引き続き担い、2019年の TICADVII に向けて、アフリカに関わる NGO 連携強化のため、アフリカ政策へのアドボカシー活動も進めていく。○ 会員を中心とした個人間の交流の場を提供するとともに、アフリカ関係の団体、企業、自治体などとの連携を促進し、ネットワークの拡大に努める。	523万円
アフリカ調査・研究事業	<ul style="list-style-type: none">○ 食料安全保障研究会公開セミナー、HFV・JVC・OJ・PRIMEとの共催連続公開セミナー「食べものの危機を考える」を開催する。○ 他のNGO、FAO日本事務所、横浜市資源循環局ほかと協力して「世界食料デー」月間の取り組みを進める○ 「FAOの資料を読む学習会」をベースに、食料・農業情報の収集と提供を行っていく○ アフリカ熱帯林の課題に関して、現地のNGOと連携し、情報提供を行うとともに、現地野生生物保全やそれと関わる日本人向けの国内での教育普及活動も積極的に進める。	142万円

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境異変に関するナショナルジオグラフィック製作の映画『地球が壊れる前に』の上映と、「映像に関わる解説トーク」を開催し、アフリカでの環境破壊の事例も説明しながら、各地で起きている異変の現状を知り、それについて考えるきっかけを形成する。 ○ メールマガジン「グローバル・エイズ・アップデート」発行を通して、世界各地のエイズに関わる最新情報を紹介し、関係者におけるエイズ対策に関する認識の強化、エイズ対策の進展を促す。また、インターンへの指導、交流を通して同分野に関わる次世代の関係者を育成する。 	
政策提言事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ アフリカなど国内外の NGO と連携して、国際的な保健に関する政策提言を行い、保健分野の改善に寄与する。特に、関係 NGO と協力しながら、国連「結核ハイレベル会合」のプロセスに関与し、結核問題の克服に取り組む。2019 年に予定されているグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の増資プロセスに関与し、日本の積極的な取り組みを促進する。 ○ 国際保健や SDGs 達成に向けた取り組みの増進に向けて、「2019 年 G20 サミット市民社会プラットフォーム」に参加する。2019 年の大阪 G20 での保健分野の進展のため、本年度の G20 アルゼンチン・サミットに向けた Civil 20 国際保健ワーキンググループに参加し、政策提言プロセスをリードする。 ○ G20 アルゼンチン・サミット、および来年大阪で開催される G20 サミット、同じく来年の TICADVII の機会を有効に活用できるよう、関係者間の調整、提言内容の深化、効果的なタイミングでの政治プロセスへの介入を行う。 ○ エイズに関わる国際的ネットワークに参加し、日本の関与を高める取り組みを強化する。 ○ 食料・農業に関する政策提言の一環として、モザンビーク・プロサバナ事業に対するモザンビーク農民組織・市民組織の声を日本に伝え、その声に応える取り組みを進める。 	340万円
アフリカ理解促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会報「アフリカNOW」を定期的に発行する。 ○ 「アフリカひろば」を始めとするアフリカのさまざまな分野への理解を広げるセミナーやイベントを開催する。 ○ ウェブサイトを整備し、アフリカ理解を促すリソース、活動を掲載する。 ○ メールマガジン「AFRICA ON LINE」を定期的に発行する。 ○ グローバルフェスタ2018ほかのイベント参加を通して、アフリカに関心を持つ人のネットワーク拡大を目指す。 ○ アフリカ健康フォーラムを定期的に開催する。 	34万円
	事業費合計	1099万円

3 会の運営に関する事項

事務局家賃、事務局員人件費、事務消耗品費、通信費などに679万円の支出を見込む。